

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和3年度技術情報第6号（チャの炭疽病）について（送付）

チャの炭疽病の前年秋季の発生が多く、茶芽の生育も早いことから、「やぶきた」など、本病に弱い品種を中心に発生状況に十分注意して、防除対策に努めてください。

なお、本情報は、病害虫防除所ホームページ（www.jpnpn.ne.jp/kagoshima）にも掲載しています。



令和3年度技術情報第6号

1 対象病害虫 炭疽病

2 対象作物 チャ

3 発生状況等

- (1) 前年秋季（10月）の巡回調査での発生ほ場率は65%と平年（49%）より高く、発病葉数も15.2枚/㎡と平年（5.9枚/㎡）より多く、一番茶への伝染源となる病葉は多かった（表1）。
- (2) 本年は2月以降の気温が高く推移し、一番茶芽の生育が早い。二番茶芽以降の生育も早まり、二・三番茶芽での発生は早くなると予想される。

4 防除上注意すべき事項

- (1) 摘採残葉での発生に注意し、発病葉の多いほ場では、二・三番茶生育初期の防除を行う。
- (2) 二・三番茶芽の摘採後に残る下位1～2葉への感染を防ぐため、萌芽～1葉期に予防防除する。
- (3) 二・三番茶芽の生育期に降雨が続く場合は感染・発病に十分注意する。
- (4) 「やぶきた」等の本病に弱い品種は特に発生に注意する。
- (5) 二・三番茶期は、萌芽から摘採までの期間が短いので、薬剤の使用時期（摘採前日数）に十分注意する。
- (6) 多発状態の続く茶園では、整・剪枝（深刈り等）により伝染源を除去する。

表1 令和2年10月の炭疽病の発生ほ場率及び発病葉数

	R2年	平年	平年比(%)
発生ほ場率(%)	65	49	133
発病葉数(枚/㎡)	15.2	5.9	258

※病害虫防除所が実施した県内20地点（全35ほ場）における調査結果